

# 検討事項

---

平成28年4月11日

事務局

## 背景事情

- 青少年のスマートフォン所有が伸びる中で、フィルタリング等利用率は下がり、特にスマートフォンでは45%と年々低下している一方、8割近くの青少年は、フィルタリングの必要性を認識している。
- コミュニティサイト等に起因する犯罪被害児童数は、フィルタリングの推進や各コンテンツ事業者の取組み等により減少傾向にあったが、スマートフォンの急速な普及に伴い、近年再び増加傾向にある。
- インターネット利用について、「家庭でルールを決めている」とする保護者は8割に上るものの、「家庭でルールがある」と認識する青少年は6割にしかならず、保護者と青少年の間で認識の差が拡大している。
- フィルタリングについて、店頭契約時は約8割の保護者が説明を受けているが、主に「フィルタリングを利用しなくても子どもものを管理できる」「フィルタリングで制限されているサービスを子どもに使わせるため」といった理由で、フィルタリングを利用していない。
- スマートフォン使用時の無線LAN利用や、MVNO等の新たな携帯電話サービスなど、青少年のインターネット利用は手段や関係者が多様化し、青少年はもちろんこと、保護者においても把握しておくべき情報が増加している。

## 論点

### (1) 関係者の理解力の向上や普及啓発の重要性に関する事項

- 各事業者による啓発活動については、水準の確保や効率的な展開等、関係者間の一層の協力を含む効率化が必要ではないか。
- 青少年のインターネット利用について、青少年自身のリテラシー向上のみならず、教える立場となる保護者や教育関係者のリテラシー向上についても、検討すべきではないか。

### (2) 利用者・事業者双方にとって使いやすいフィルタリングの実現に関する事項

- 設定の複雑化/長時間化や、使い勝手の悪さも、保護者がフィルタリングの設定を回避する理由のひとつとなっているのではないか。この場合、現在のフィルタリングの仕組みの変更を検討すべきではないか。
- 青少年において、フィルタリングの必要性は認識されているものの利用率が低く、青少年の使用実態とフィルタリングの対象に乖離があるのであれば、フィルタリング対象の見直しを検討すべきではないか。

### (3) 青少年のインターネット利用環境整備(理解力の向上・フィルタリングの活用)のための体制の整備に関する事項

- 上記のような課題に対し、今後関係者がどのような役割を果たし、どのような体制を確立していくべきなのか。